

専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③企07-12-2/5）

目 的

文化財関連資料の公開機関としての周知の広がりをつまみ、(1)受け入れた文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録管理、(2)閲覧室で月・水・金の週3回の一般利用者へ所蔵資料の提供、(3)データベースの作成、検索システムの構築・ホームページ上での諸情報の提供を通常業務とするとともに、提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの充実を図ることを目的とする。

成 果

1. 資料閲覧室の運営

文化財に関する諸資料の収集・管理・公開・データベースの構築・運用を基本に、より充実したアーカイブ形成に努めた。その一環として、(1)インターネット上での公開を目指して画報社版『日本美術年鑑』のテキスト化を行った（近・現代視覚芸術研究室の協力による）。また、(2)劣化が進む資料類の保護対策の一環として貴重雑誌のデジタル画像化をすすめるとともに、(3)国内外の関連機関との協力関係構築とへの取り組みと有効な資料公開システム構築のため協議を行った。今年度はとくにイギリスのセインズベリー日本芸術研究所と提携に向けての協議を行った。

2. 画像情報室

他部・センター、他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。通常フルカラー画像撮影件数4,188件、特殊画像撮影件数816件、デジタル画像撮影の全体に占める割合100%。

3. 企画情報部にて作成・更新中のデータベース

標記のデータベースには以下の38種がある（作成件数31,333件、収録件数1,049,245件、公開件数1,025,731件）。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1) 所蔵和漢書（～11） | 20) 展覧会（03以降） |
| 2) 受入和漢書（12年度分） | 21) 近現代作家名 |
| 3) 所蔵洋書 | 22) 近現代展覧会開催情報（35以降） |
| 4) 所蔵簡易図書 | 23) 写真原板 |
| 5) 売立目録 | 24) キャビネット写真 |
| 6) 所蔵美術館博物館収蔵目録 | 25) 古美術文献目録（明治～65） |
| 7) 和雑誌誌名 | 26) 美術文献目録（35～09） |
| 8) 所蔵洋雑誌誌名 | 27) 美術館博物館名 |
| 9) 所蔵中国雑誌誌名 | 28) 東京文化財研究所年表 |
| 10) 所蔵韓国雑誌誌名 | 29) 美術研究総目次 |
| 11) 所蔵和雑誌巻号（～02） | 30) 撮影調査票 |
| 12) 所蔵洋雑誌巻号（～05） | 31) 古美術展覧会開催情報 |
| 13) 所蔵和雑誌巻号（03以降） | 32) 物故者記事 |
| 14) 所蔵洋雑誌巻号（06以降） | 33) 美術懇話会 |
| 15) 所蔵中国雑誌巻号 | 34) 開所記念展覧会出品目録 |
| 16) 所蔵韓国雑誌巻号 | 35) 美術家美術関係者情報 |
| 17) 所蔵地方公共団体刊行報告書 | 36) 画廊情報 |
| 18) 所蔵香取秀真資料関係 | 37) 美術史論壇 |
| 19) 展覧会（02まで） | 38) 鈴木敬旧蔵資料目録 |

4. インターネット公開中の研究資料検索システムに提供中のデータベース

標記のデータベースには以下の15種がある。

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1) 美術関係図書 | 9) 画廊資料 |
| 2) 伝統芸能関係図書 | 10) 美術関係文献 |
| 3) 保存修復関係図書 | 11) 『保存科学』 所載文献 |
| 4) 売立目録 | 12) 伝統芸能関係三雑誌所載文献 |
| 5) 展覧会カタログ | 13) 『美術研究』 総目次 |
| 6) 和雑誌 | 14) 近現代美術展覧会開催情報 |
| 7) 写真原板 | 15) 伝統楽器情報 |
| 8) 美術家・美術関係者資料 | |

5. 図書受入数

和漢書885件、洋書41件、展覧会図録・報告書等3,868件、雑誌2,229件（受入総数7,023件）
38種の目録所在情報

6. 資料閲覧室の利用状況

公開日総数139日、利用者年間合計1,139人

研究組織

○綿田稔、田中淳、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、津田徹英、塩谷純、小林達朗、皿井舞、城野誠治、井上さやか、橘川英規、中村明子、鳥光美佳子（以上、企画情報部）、飯島満、佐野千絵（以上、企画情報部併任）

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（③無03-12-2/5）

目 的

無形文化遺産部では、旧芸能部時代から、文献資料のほかに、音声・画像資料を積極的に収集してきた。これらの記録は極めて貴重であるが、記録メディアの進展に伴って、より好環境のもとに保存してゆく必要がある。このため無形文化遺産部では、画像・音声・映像資料の媒体転換を進めてきたが、将来的には、デジタル化された各種資料の集積によって、デジタル・アーカイブの開設を目指している。

成 果

昨年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。カセットテープに関しても、将来のデジタル化を視野に、収録内容の確認を含めた整理を行った。所蔵SPレコードの内、特殊な再生装置が必要な初期音盤の一部について、内容確認及び媒体変換を行った。

研究組織

○宮田繁幸、高桑いづみ、飯島満、今石みぎわ、綿貫潤、星野厚子、佐野真規（以上、無形文化遺産部）